

第一回地域教育連絡協議会

令和5年6月10日(土)

1. 校長挨拶

- ・昨年度から少しメンバーが変わっている。
- ・コミュニティスクールについて 質問なども。

2. 地域教育連絡協議会委員紹介 及び 公開授業のご感想など

3. 道徳授業地区公開講座について

講師:大田区教育委員会 指導主事 村松 千恵子先生

- ・5年生 範読に聞き入る 学びに真剣な表情、反応◎ 音読よい
- ・6年生 ルールについての葛藤 友達との交流で多面的・多角的に考えられた。
自分のことについて考える時間◎
- ・4年生 自分の長所短所についてはあげにくい、今日学ぶことを考えられる。
田臥選手の動画→教材を身近に感じることができていた。
友達の意見に共感する声がよく聞こえていた。
- ・3年生 色で気持ちの変化をわかる工夫◎
言われてばかりではなく、身近なものを考えることで自分ごとになる。
交流をもとにして考えが広がっている。→6月の目標にもつなげていた。
- ・2年生 つぶやきをひろって問い返しをしていた→自分たちの考えから道徳的な価値をみつける
ことができた。
- ・1年生 うれしい→どういうところ?と先生が掘り下げていくことがよかった。
- ・対話をもとに、道徳的な判断力などを身につけていってほしい。

4. 今年度の学校経営方針と主な取り組み 学校長

- ・目指す児童像「自分大好き、友だち大好き、ふるさと大好き」を中心に。
- ・コロナ禍が終わり、「チャレンジ」を合言葉に教育活動の工夫と改善を図る。
- ①子どもが楽しく登校し、喜びの中で育つ学校
- ②保護者から信頼され、安心して子どもを預けられる学校
- ③地域に愛され、共に子どもたちを育む学校
- ④教員が自らの職責を誇りに思う学校
- ・自己評価 報告書について
- ・90周年 ドローンを使った航空写真撮影・・・風が強いとできない。

5. コミュニティスクールについて

教育総務課 教育地域力推進コーディネーター 柏葉 清志様 副参事 長岡 誠様

<大田区版コミュニティスクールの推進について>

- ・大田区はあまり多くないが、全国的には多いもの
- ・「学校を支えよう」から年々進化している。
- ①コミュニティスクールは、「地域とともにある学校」と周知できる。
- ②特別職の地方公務員・・・学校運営協議会の委員になる。
- ③協同 スクサポの活動に補助金が上乘せされる。
- ④熟議 学校、保護者、地域が相互理解を深める。
- ⑤人財 活動を通して保護者や児童・生徒等から、地域を担う新しい人財が輩出することを期待する。
- ・区内87校がR8年にコミュニティスクールになる予定（現在12校が導入済み）

<コミュニティスクール（学校運営協議会制度）の推進について>

- ・学校運営協議会があるところが、コミュニティスクール
- ・全国的には導入率42.9%
- ・未導入の場合、地域教育連絡協議会と学校支援地域本部が制度上、連携体制なし。
- ・導入した場合、学校運営協議会と地域学校協働本部が、協働でうごくことができる。
- ・学校運営協議会規則・・・第12条 協議会は教育委員会又は校長に対して、意見を述べるができる。
- ・熟議→小集団→全員で協議

<質問>

- ・コミュニティスクールでできることの事例を行うことについて
- 地域教育連絡協議会で話し合っ、さらによりよいものにする、共通理解する。

6. その他 今後の地域教育連絡協議会の予定について